



浦島伝説

毎日が「時の記念日」です

昨日は「時の記念日」。その日に伝えなかったことが、1日遅れてしまったことを反省しています。

「時間」に関する名言はたくさんあります。『今日という一日は明日という二日分の値打ちを持っている(フランクリン)』『未来はすでに始まっている(ロベルト・ユンク)』『明日はなんとかなると思う馬鹿者。今日でさえ遅すぎるのだ。賢者はもう昨日済ませている(クーリー)』『時間の使い方の最も下手なものが、まずその短さについて苦情を言う(ラ・ブリュイエール)』『“手に入れて、失うもの”、それがお金です。しかし、時間は“失うこと”しかできません。ですから大切に使わなければいけないのです』……。

学校生活でも、「時を守る」場面はたくさんあります。7:55までに登校する、授業の2分前に着席する、3:35に帰りの会を始める、部活終了時刻から15分後には下校を完了するなどです。これらは、守れて当たり前前のことです。時の記念日をきっかけに、時間を意識した行動がとれるようになりましょう。

この世界のあらゆるものの中で最も長く、最も短く、最も迅速で、最も遅いもの…、それは何か。これはフランスの作家ヴォルテールの著書に出てくる問いかけの一部で、その答えは「時間」。6月10日は時の記念日◆1920年に東京天文台と生活改善同盟会が提唱した記念日。天智天皇時代の671年6月10日に、日本で初めて「漏刻」という水時計を設置して人々に時間を知らせたという故事にちなんでいる◆この水時計の管理には2人の漏刻博士がおかれ、守辰丁と呼ばれる20人の時守を用いて水量をチェックし、決められた時刻に太鼓や鐘で時を知らせていた◆今では携帯電話やスマートフォンにも時計機能があり、誰でも正確な時間を共有できる。だが、それをいかに有効に使うかはその人の才覚によると、ホンダの創業者・本田宗一郎は言う。長い人生、時間は無限にあるかのように思えるが、確実に存在するのは、今この一瞬でしかない◆日々の忙しさを言い訳にして時間を浪費している我が身を反省していると、以前セイコーのCMで流れていた言葉を思い出した◆「ありがとう」この1秒ほどの言葉に人の優しさを知ることがある／「頑張って」この1秒ほどの言葉で勇気がよみがえってくる／「おめでとう」この1秒ほど言葉で幸せにあふれることがある◆わずか1秒ほどの短い言葉でも伝わる思いはある。せめて6月10日ぐらいは時間の大切さを考える1日にしたい。(※四国新聞「一日一言」から引用)

「全力授業」で心を育てます

生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道徳性を身に付けることは、人として生きていく上でとても重要です。政府の教育再生実行会議が道徳を正式な教科にするよう提言するなどの動きも見られます。本校でも、その必要性から、今年は道徳教育を充実しようと取り組んでいます。

そこで、毎年行っている校内研究授業として、全学年道徳の授業を実施しました。1年4組は、横田義崇先生がPK戦を話題に取り上げ、嫌なことから逃げ出さずに立ち向かうことの大切さについて考えました。2年3組は、岩崎洋之先生が友達の本当の意味について考えさせ、互いに高め合える関係が大切であることを学びました。3年2組は、篠原弘子先生と桑田修幸先生の二人で、瀬戸内国際芸術祭に関連した写真などを紹介することで、生徒たちは詫間町のよさに気付き、郷土を愛する心をはぐくむことができました。他のクラスが早く帰ったなか、残ることになった3クラスの生徒たちは嫌だったかもしれませんが、授業後の充実感のある表情が印象的でした。残って授業を受けたかいがありましたね。

